

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「川上村×クライミングキャンプ2022 in 小川山」
事業主体 (連絡先)	川上村 南佐久郡川上村大深山 525
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,994,000 円 (うち支援金: 2,365,000円)

事業内容

1、小川山を活用したフリークライミング啓蒙イベント

廻り目平キャンプ場を拠点とし、小川山全体を使ったクライミング啓蒙イベントを開催した。アウトドアメーカーやフリークライミングをPR施策に用いた企業を招待し、それらの擁するサポートクライマーや契約ガイドがアウトドアクライミングをテーマとした体験コンテンツを実施した。その他、夜のキャンプ場を利用して星空の下で、アウトドアクライミングに関するトークイベント、映画等の上映を行い、新規ユーザーや既存クライマーへの安全啓蒙や知識の拡充を行った。

2、小川山の岩場イラストマップ看板整備

クライミングに訪れる利用者が、行きたい岩場がどこにあるのか素早く把握できることを目的に、また、クライミング以外の目的で訪れるキャンプ場の利用者などに対して、これらの自然・観光資源の存在をアピールすることを目的として、廻り目平キャンプ場を中心とした小川山の岩場イラストマップ看板を整備した。



【講座の様子】



【整備看板】

【目標・ねらい】

- ① 業界連携による川上村観光施設の認知度の向上
- ② 廻り目平観光施設の入込客数の増加
- ③ 利用者の利便性・認知度の向上

事業効果

- ① 県内外から多くのクライマーを呼び込んで、全国に誇るクライミングが出来る環境を初心者やインドアクライマー、業界関係者向けにPRすることができた。
- ② コロナ禍やトップシーズンにおける悪天候の影響により、目標値に対する誘客は大きくマイナスとなったが、全体の利用者数は、前年度並みを維持した。(前年比1.1%減) また、キャンプ場利用者数(オートキャンプ含む)においては、前年を上回った(前年比2.3%増)
- ③ 事務所前に設置したことにより、利用者への利便性・観光資源の認知度向上が図れた。

※自己評価【 C 】

【理由】

- ・コロナ禍、悪天候の影響により全体の入場者数は、前年比1.1%減。
- ・キャンプ場(オートキャンプ場含む)の利用者数は、前年比2.3%増。

今後の取り組み

次年度以降についても、継続してイベントを開催する方向で検討する。また、地元での認知度が低いため地域住民に向けた新しいコンテンツを盛り込むなど、地域住民と村内事業者も巻き込んだイベント内容の充実、事業の発展を図りたいと考えている。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	古い着物を活かして楽しむ文化継承イベントの実施 ～第11回 城下町フェスタ企画
事業主体 (連絡先)	城下町にぎわい協議会 長野県小諸市本町 3-1-4 電話 090-1200-0239
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	569,459円 (うち支援金: 454,000円)

事業内容

1、「古着物をいかしたおしゃれ」提案募集～選考

①「着物で小諸城下町フォトコンテスト」の企画づくり

着物に関わる事業者、作家、愛好家で「フォトコンテスト」と「キモノでフェスタ」(フェスタにキモノで来ると各店で特典がある)の企画を練った。

②参加よびかけの広報の作成・配布、ネットでの広報

フォトコンとキモノでフェスタのチラシ・ポスターの配布、SNS等での参加呼びかけを進めた。

③様々な賞を設定し、応募作品の中から選考し、授与した。

92点の応募の中から選定し、商品等を授与した。

2、城下町フェスタの実施

伝統建築の空き店舗や公共施設をつかって、13の特設ギャラリー&ショップを巡り歩いていただく城下町フェスタの企画実施を進めた。

① 城下町フェスタの広報

チラシ、ポスター、SNSでの発信を行った。

②城下町フェスタの開催(9月22日、23日、24日、25日)

キモノ企画により、着物姿の方も多く、華やかな雰囲気イベントとして実施することができた。



【本陣主屋での展示】



金賞を受賞した作品

事業効果

城下町フェスタは、4日間で2000人程度の来訪者があった。新聞各社が、今回の新しい話題である「キモノでフェスタ」「フォトコンテスト」を中心に報道をしてくれた。それにより、着物の似合う町小諸をPRすることができた。また、地元の呉服店などが、今の若い方達も着物に関心があることを実感し、新しい着物販売のアイデアを得ることができた。

今後の取り組み

来年も、着物を着て参加できるイベントとして城下町フェスタを実施し、着物のまち小諸を定着させて行きたい。

【目標・ねらい】

- ①参加者を1500人を目標とする。
- ②マスコミに多数紹介してもらう
- ③協力店の数をふやす
- ④着物を楽しむ人の裾野を広げる

※自己評価【 A 】

【理由】

当初の目的のとおり事業効果をあげることができた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久地域の高校生とご当地グルメが連携「佐久高校生ラーメン甲子園」事業
事業主体 (連絡先)	信州佐久安養寺ら～めん会 佐久市猿久保 805-1 電話 0267-66-6660 会長 金子 祐一
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,716,933 円 (うち支援金: 1,373,000 円)

事業内容

●高校生が佐久地域の食文化や食材を学び、専門家とともに研究・開発した創作ラーメンの販売をする。また、同時に環境問題、ゼロカーボン、新型コロナウイルス感染対策など、社会の課題も実地で学ぶ佐久地域高校生のイベント。

「第3回佐久高校生ラーメン甲子園」概要

- ・開催日/令和4年10月1日(土)・2日(日)
- ・場所/佐久市猿久保 駒場公園(さく市会場内)
- ・参加校数/佐久長聖高校(6名)、佐久平総合技術高校浅間キャンパス(5名)、小諸商業高校(9名)
- ・チーム編成
佐久長聖高校×麺匠文蔵
佐久平総合技術高校浅間キャンパス×光志亭
小諸商業高校×とんちき麺
- ・概要/佐久地域食材を使用した高校生の創作ラーメンの開発～販売、評価と社会課題の実地での体験学習など
- ・内容
 - ①高校生チームがラーメン考案(安養寺ら～めん会他がサポート)
 - ②サポート店と共に試作開発、環境課題であるゼロカーボンへも取り組む
 - ③出店・販売オペレーション打ち合わせ、コロナウイルス感染対策の徹底
 - ④出店
 - ⑤表彰

事業効果

- 1、佐久商工会議所、佐久市主催のイベント「さく市」での誘客コンテンツとなった。さく市全体の来場者数33,000人に対し、飲食関連の来場者数(購入者)6,438人(内ラーメン甲子園の来場者約1,000名)
- 2、出店高校生の友人、知人、家族や卒業OB・OGなど、多くの方が来場。
本年は、新型コロナウイルス対策も考慮し販売数で1200杯、投票数で850票を目標としたが、実販売数1200杯、有効投票数983票となった。
- 3、未来の起業者、就業者が佐久の産業の一端を体験して、将来の方向性を決める動機づけ機会となり、飲食



【試作】



【試作】



【大会】



【大会】

(別記様式第12号) (第3の8関係)

業を志す生徒が2名参加。

- 4、マスコミなど、参加高校の露出が増え、学校活性化の要因となった。信濃毎日新聞や県内テレビ局が報道されました。
佐久平総合技術高校浅間キャンパスには直接取材依頼もありました。
- 5、ラーメンの価格を 500円にし、全校実食希望者を後押ししました。
- 6、ラーメンの容器を木製パルプ紙に変更し環境面で貢献しました。(ゼロカーボンの取り組み)

【目標・ねらい】

- ①佐久商工会議所、佐久市主催のイベント「さく市」の会場で同時開催し、誘客コンテンツとなる。
- ②出店高校生の友人、知人、家族や卒業OB・OGなど、出店高校生のみならず来場が期待できる。
- ③未来の起業者、就業者が佐久の産業の一端を体験して、将来の方向性を決める動機づけ機会となる。
- ④マスコミなど、参加高校の露出が増え、学校活性化の要因となる。
- ⑤ラーメンの価格を 500円にし、全校実食希望者の後押しをする。
- ⑥環境面で貢献する。(ゼロカーボンの取り組み)

※自己評価【 B 】

【理由】

コロナ禍ということもあり、集客等に不安はあったが、目標以上に来客があり、ラーメンを提供することができた。しかし、出場高校が少ないのは悔やまれる。

今後の取り組み

令和5年度の「さく市」でもメインコンテンツとして開催を主催者より相談されています。
(運営方法等は検討中です)
今回参加された高校より別途授業の講師の依頼がラーメン店にあったり、他地域のイベントとのコラボレーションなどの相談があり、高校生が地域の産業と関わりをもつことができ始めている。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	高大連携活動事業の推進（「動物飼育」を通して、「ケア」を育む実践事業）
事業主体 (連絡先)	学校法人 佐久学園 長野県佐久市岩村田 2384 TEL 0267-68-6680
事業区分	(3)教育、文化の振興 (1)地域協働の推進
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,984,094 円（うち支援金：1,490,000 円）

事業内容

1 「動物飼育」を通して、「ケア」を育む実践活動
飼育環境を改善するために、動物の寝床と台風、雨、日照りを防ぐ飼育小屋の補修をする。また、飼育場所に学生と花、樹木を植栽して動物のストレスを軽減する。（別添「学校飼育動物の飼い方」）さらに放牧の周囲に木材チップを敷くなどの整備をして安全に飼育の活動を地域住民に開放できる環境を構築する。



事業効果

- ・新型コロナウイルス感染予防のため、佐久学園 BCP により学外者を校内に入れることはできなかった。
- ・飼育の協働により相互の知の理解度の 6 割増やすことができた。
- ・動物と触合うことによりストレスの 7 割軽減ができた。
- ・環境整備により環境負荷の 6 割低減ができた。
(敷地内グラウンドの除草作業において羊を放牧したことによって草刈り機の排ガスをなくすことで環境負荷を低減することができた)

今後の取り組み

連携協定校の佐久平総合技術高等学校と佐久大学は、今後も「動物飼育」をボランティア活動と協働の一環として位置づけ、大学はグラウンドに餌となる草が生える 5 月上旬から、寒くなり草が枯れて餌が無くなる 10 月末まで預かることに合意している。

【目標・ねらい】

- ①・動物飼育の活動を通じて、命の大切さを含めて「ケア」を育む
- ②羊を放牧し、環境負荷を低減
- ③動物に接することによる心身の健康保全

※自己評価【 B 】

【理由】

学外者を校内に入れることができなかったが、予定していた効果が得られた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久市地域防災マップ作成コーディネート事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 (0267-62-3008)
事業区分	(4)安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,843,291 円 (うち支援金 : 3,074,000 円)

事業内容

過去の災害の被災箇所や地域の危険箇所等の防災情報を住民主体で地図に書込み、“地域防災マップ”として取りまとめることで「地域防災力の向上」を図る。

被災箇所の現地確認や防災について学ぶ学習会を開催し、“地域防災マップ”の作成と、それをもとに平時から防災対策や災害時の避難行動について考える講座や研修を実施した。

また、完成した“地域防災マップ”は各区に配布し、公会場などへの掲示や地域の防災訓練などでの活用を呼びかけた。

現地調査・学習会への参加人数(延べ数) 670名
地域防災マップ作成地域(区) 7地域 38区

事業効果

住民が主体となって地域防災マップが作成されたことにより、地域の災害リスク・避難経路などの可視化、平時からの防災活動の明確化、災害時の避難行動の指針の形成が図られた。

また、マップ作成の過程で、地域防災に必要な知識や地域の特性について理解・共有する機会が創出されたことで、平時から防災に対する備えや災害時の避難行動について個人・地域で話し合わせ、地域独自の防災活動体制づくりが促進された。

今後の取り組み

- “地域防災マップ”を作成した地域においては、防災訓練や平時からの避難行動の参考にしてもらえるよう、また、あらたな情報をマップに書き込んでいただくことを出前講座などで活用を呼びかけ、作成したマップが地域で継承されて行くよう支援を図っていく。
- 地域の消防団と区が地域の危険箇所を確認・共有する「さくの絆作戦」とも結びつけ、マップの活用について継続的に使用されるような仕組みづくりを推進する。
- 令和元年東日本台風の被害を受けた地域を中心に地域防災マップの作成地域を拡大していき佐久市全体の地域防災力の向上を図る。



【学習会の様子】

【目標・ねらい】

- ①地域自らが作る災害時の避難行動に役立つ防災マップの作成
- ②マップ作成を通じた地域防災に対する意識の高揚、地域の防災活動体制強化。
- ③地域防災力の向上。

※自己評価【A】

【理由】

- ・多くの区、人の参加があり、より地域の実情を反映した地域防災マップを作成することができた
- ・事業計画より多くの参加者に地域防災について学ぶ場が提供できた。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域を支えるLPガス 保安・防災体験出前教室
事業主体 (連絡先)	長野LP協会佐久支部 (佐久市跡部65-1 佐久地域振興局内 電話0267-63-3450)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくりに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	891,088円 (うち支援金691,000円)

事業内容

- LPガス災害対応機器(市町村に配備)の使用方法及びLPガス災害対応機器を備えてあるLPガス販売事業所の所在地を記載した管内地図『LPガス災害対応機器お助けマップ』を作成し、出前教室等で配布
- 保安・防災体験出前教室の実施
 令和4年6月21日(火) 佐久市立佐久平浅間小学校
 令和4年9月3日(土) 佐久市野沢会館
 令和4年9月21日(水) 佐久市立中佐都小学校
 令和4年10月14日(金) 小諸市立坂の上小学校
 令和4年10月23日(日) 北部消防署



【上：マイコンメーター作動実験】
 【下：LPガス発電機始動体験】

【実施内容】

- ・LPガスの基礎知識、液体窒素実験
- ・災害対応機器の活用体験
- ・LPガス災害対応機器お助けマップの配布
- ・アンケートの実施

事業効果

- LPガス関連機器取り扱い方法について、子ども並びに教育関係者へ周知を図った。
 ・配布部数 80部
- LPガス災害対応機器お助けマップの作成及び配布することにより、災害時に対応できるLPガス販売事業所の所在地を知ってもらい、LPガス災害対応機器活用に期待ができる。
 ・配布部数 261部
- 教育機関、地域住民と連携して事業を実施することにより、災害時に役立つLPガスの有用性を周知でき、防災意識の向上が期待できる。
 ・参加者数 261名
- 自治体、消防署及び地域消防団員と連携した事業を実施することにより、LPガスの有用性をアピールでき、災害対応機器についても周知することができた。
 ・自治体職員、消防署職員及び消防団員 136名

【目標・ねらい】

- ①災害対応機器活用方法の認知
- ②LPガスが災害に強いエネルギーであることへの理解度を高める
- ③LPガス災害対応お助けマップの周知

※自己評価【B】

【理由】

- ・保安・防災出前教室がすべて計画通り実施出来た。
- ・地域住民及び教育機関、消防関係者に当事業を周知できたことは、地域防災力向上に繋げることが出来た。

今後の取り組み

保安・防災出前教室を三年間実施でき、地域住民並びに教育機関、消防署との防災教育での連携関係が構築できた。今後もこの連携を生かし事業を実施していくこと、広域的に実施していくことの2点を目標に取り組んでいきたい。事業を広域的に実施していく点では、他の支部を巻き込んでこの事業に参加してもらいここで得たスキルを所属の支部でも実施してもらえるような仕組みづくりを考え、県全体に波及させることによりLPガスによる地域防災力向上を図っていきたい。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	常和を元気にする復興まちづくり事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 常和区 (佐久市常和 1728)
事業区分	(4) 安全・安心な地域づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	894,165 円 (うち支援金 : 715,000 円)

事業内容

佐久市常和区では、台風 19 号により住宅の損壊、浸水被害、農地への土砂流入、山林の崩壊など過去に例のない大きな災害が発生した。

安心・安全に暮らし続けることのできる地域をつくるため、住民が主体となって地域防災力の向上やコミュニティの再生に取り組む。

1. 広報・災害伝承活動
復興まちづくりだよりの発行 : 6 回
2. 避難体制の強化
自主防災組織の強化、防災活動マニュアル等の作成・周知
3. 復興拠点の整備
つつじ公園、憩いの場の整備

事業効果

- ① 定期的にまちづくり活動の状況を全区民や関係機関、マスコミなどに情報発信することができた。
- ② 自主防災組織の中に防災リーダーを位置付け、「常和区防災マニュアル」「防災マップ」を改訂・周知するなど地域防災力の向上を図ることができた。
- ③ 区内外から多くの人々が参加 (約 1,200 名) し、つつじ公園の拡張やイベント (復興大根祭り) の開催、また憩いの広場でのお花畑化の活動などが実施できた。

今後の取り組み

- ・地域防災力を向上させるために取り組んだ3年間の成果 (自主防災組織の強化や避難体制の構築など) を地域に根付かせるために防災リーダーなどが中心となって防災・減災活動を継続していく。
- ・今回整備した復興拠点 (つつじ園、憩いの広場) を活用して、より多くの人々が集り、喜んでもらえるようなイベントを継続していく。



【目標・ねらい】

- ① 住民への情報提供
- ② 地域防災力の向上
- ③ 地域コミュニティの活性化

※自己評価【 B 】

【理由】

- ・広報紙や SNS により地域の取組みを発信できた。
- ・復興拠点に多くの参加者が集い、地域の活性化につながった。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小海町ゼロカーボン・ワーケーション基盤整備事業
事業主体 (連絡先)	小海町 南佐久郡小海町大字豊里57-1
事業区分	(6) 産業振興及び雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,500,000円 (うち支援金: 3,600,000円)

事業内容

- ① **ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会設立・運営**
小海町ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会を設立し、町内外の多様な意見交換を行い、小海町ゼロカーボン・ワーケーション事業計画や実施計画書の作成、実証実験の検証などを実施。
- ② **ゼロカーボン・ワーケーションの実証実験**
小海町ゼロカーボン事業の取組み理解のため、実証実験を実施。参加者には地域課題を把握し、地域課題を解決するグループワークなども実施。
10月26～28日開催 参加者: 9名、協議会関係者: 10名 (推進企業、協力企業、憩うまちこうみ協議会など)



【実証実験の様子】

【目標・ねらい】

- ① 地元民へのゼロカーボン周知
- ② 事業推進による関係人口増加
- ③ 事業を通じての関係企業数増加

事業効果

- ① 支援金を活用し、協議会を設立・運営し多様な主体と事例を共有しながら意見交換をでき、参加者のゼロカーボンへの意識が醸成された。
- ② 協議会や実証実験により、ゼロカーボンを意識したリモートワークの利用が延べ233人あった。
- ③ 事業推進により協定企業からの支援を得られ、町のゼロカーボン事業が促進され、新たなゼロカーボン事業に取り組みが生まれている。そのことにより連携企業数も5社増。

※自己評価 【 B 】

【理由】

協議会設立によりゼロカーボン周知や関係人口の増加、協定企業数5社増加(3年目標11社)等一定の成果があったが、J-クレジット排出権などの事業化には課題が残るため。

今後の取り組み

ゼロカーボン・ワーケーション推進協議会の活動では、引き続き多様な主体による意見交換を行いながら、地域課題解決型ワーケーションにより、町内外参加者の交流を図ると同時に地域課題の解決も参加者で検討していく。

また、町民参加者がオピニオンリーダーとなり地域住民への波及効果に繋げることを目的の一つとし、誰もがチャレンジしやすいゼロカーボンアクションの取組みについて報告チラシにまとめることで、町民1人1人が小さなアクションを起こしCO2削減に貢献できる事業として拡充していく予定。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	コミュニティ・パワー まちづくりプロジェクト
事業主体 (連絡先)	軽井沢ハルニレ・グリーン・クラブ
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業 (3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,956,500 円 (うち支援金 : 4,765,000 円)

事業内容

脱炭素社会に向けた社会の動きが加速する中、住民一人ひとりの環境意識の向上と、環境取組の具体的なアクションが求められている。それを実現する機運を作るべく、以下取組を実施。尚、当初予定していた自然エネルギー由来の電力切替に向けた電力の共同購買の活動は、昨年来のエネルギー価格高騰の影響による電力市場や新電力事業者の財務状況の悪化もあり未実施。

- 1) 昨年度の元気づくり支援金で創刊した環境情報紙「エコチル長野版」を、本年度は佐久地域に加えて上田地域の全小学校にも無料配布実施。本取組みを通じて、環境問題や自然エネルギーなどの現状や課題等を身近な事例から分かりやすく記事化し、小学生や保護者の環境意識の向上を図った。
- 2) 環境/地域創生活動に積極的に取組んでいる松本山雅FCと連携し、親子・子供向けの環境意識調査を行った上で、来季ホームゲームで試合で排出されるCO₂の量を実質ゼロにする「ゼロカーボン・チャレンジマッチ」の開催を企画。サポーターがグループで取組むプロジェクト、個人として取組むプロジェクトを公募・選定しサポーター主導で主体的に取組む活動を実施(継続的に取組中)

事業効果

- 1) 教育委員会の協力も得て、佐久地域(北佐久郡、佐久市、小諸市、南佐久郡)、及び上田地域(上田市、東御市、長和町、青木村)の全71校の小学校に毎月配布。小学生や保護者の購読率も高く、昨年同様、学校の教員からもSDGs教材として評価が高かった。また生徒による投稿数も大きく伸びておりエコチルの認知度も向上。広告掲載も昨年対比で増加しており、自走に向けあと一歩のところまで来ている。
- 2) 松本山雅FCと連携したゼロ・カーボンマッチ企画(“good with YAMAGA”)では、ワークショップ(全4回)参加者は900名超(加えてSNSでの参加者が200名弱)、サポーターがグループで取組むプロジェクトへの公募が21件(内3件を選定)と主体性の高い取組みとなっており、6月17日のホームゲームでのゼロ・カーボンマッチ実現に向け、マイボトルの使用、シャトルバスの活用、ユニフォームの再利用がサポーターの間で開始されている。



【目標・ねらい】

- ① 住民一人ひとりの環境への理解と意識の向上
- ② サポーター・コミュニティのチーム愛・結束力を活用した、環境活動への主体的な取組み

※自己評価【A】

【理由】

- ① エコチルの生徒、及び保護者の購読率が夫々97%、67%と、昨年度の数値を超えた。
- ② ワークショップ参加者が900名超、SNSでの参加者が200名弱となり、またサポーターがグループで取組むプロジェクトへの公募が21件と、いずれも想定を超過。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

今後の取り組み

- 1) 環境情報紙エコチル長野版については、来年度も佐久地域・上田地域での配布を継続的に取り組むとともに、最終年度ということもあり、自走に向けたスポンサーの確保にも積極的に取り組む予定。
- 2) 松本山雅FCとの「ゼロ・カーボンチャレンジマッチ実現」に向けたサポーターを巻き込んだ”good with YAMAGA”の取り組みについては、実際のCO2削減量を測定し効果の見える化を図りながら、こうした取り組みに共感し支援を行うスポンサーの確保や、ソーシャル・インパクト・ボンドの活用による資金の確保など、松本山雅FCと連携して方策の具体化に取り組む。
- 3) 自然エネルギー電力への切替促進の取組については、共同購買の仕組みは出来ており、電力市場や新電力事業者の動向も見ながら、実施可否を判断していく。

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	白樺林の保全を目的としたソーシャルビジネスの基盤構築事業 ～白樺を核とした地域ブランドの普及促進に向けて～
事業主体 (連絡先)	信州白樺クラフト製作所 (立科町芦田八ヶ野 1026 / 090-8013-3907)
事業区分	(5) 環境保全及び景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	898,280円 (うち支援金: 686,000円)

事業内容

将来に向けて継続的に美しい景観を維持できるよう、白樺林の保全に向けた循環サイクルの構築および白樺を核とした地域ブランドの普及促進を図るため、下記の取り組みを行なった。

1. 白樺保全事業
2. 商品開発事業
3. ブランディング実践事業
4. PR 広報事業

事業効果

<目標・ねらい>

1. サステナブルな白樺の森づくりを目的とした整備作業を仲間と共に行うことで、白樺と地域の関係人口をつくる
2. 白樺樹皮細工の主力商品開発および芯材を活用したククサづくり体験
3. ターゲットを対象とした広告戦略立案

<事業効果>

1. 白樺保全事業

白樺林整備活動は東信地区を中心に約 40 名参加し、94%の満足度を得ることができた。また、100%の方が次年度以降も参加したいと回答した (回答率72%)

(参加者内訳)

県内: 立科町、茅野市、原村、佐久市、佐久穂町、小諸市、軽井沢町、御代田町、東御市

県外: 東京、愛知県、埼玉県、群馬県

職業: 林業、山小屋勤務、雑貨屋、花屋、木工作家、スキンケア作家 等

(参加者の声)

- ・ 日常では絶対に経験できない作業ができたのが大満足でした
- ・ 白樺のことが色々分かって、何か役に立てないかと考えるようになった
- ・ なかなか体験出来ない事を体験できる。同じ志しを持つ方が集まるのでその方たちとの会話も楽しい
- ・ 白樺の見方が変わりました。ありがとうございます。

(別記様式第12号) (第3の8関係)

- 立科町には白樺が沢山生えていて、羨ましい。その資源を無駄にせず活用することと林の保全活動が繋がっている…この取り組みがずっと継続していきますように。

(白樺保全事業の様子)



2. 商品開発事業

- ①白樺樹皮細工の作り手が新たに3名増え、基本スキルを身につけることができた。また、北海道と比べて白樺の根が取りやすいことを生かし、根かがり編みの開発にも取りかかることができた。

(商品開発事業の様子)



- ②芯材を活用したククサづくり体験は、たくさんの応募者の中から抽選で行うほどの人気で、開催日を一日増やし3日間で12名を対象に行った。

(ククサづくり体験の様子)



(参加者の声)

- 皆で収穫した材を使って皆が楽しめるように考えてくださり本当に素晴らしいと思いました！これからも応援してます！
- 白樺の木をいろいろな形で活用されている白樺クラフトさんの活動に参加できて嬉しかった
- 丸太からくり抜くと聞いて最初は驚いたけど、先生のおかげで時間内に完成できて感動しました。貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

3. ブランディング実践事業

昨年明確にした下記のターゲットに対し、主にSNSでアプローチする方法をとった。結果SNSのフォロワーが下記のとおり増加した。

▼主なターゲット

ハンドクラフト志向/アウトドア志向/ソーシャルグッド志向

※これに居住地、性別等を掛け合わせて絞り込み、アプローチした

Facebook：前年比 146%増

Instagram：前年比 145%増

4. PR 広報事業

仲間募集説明会を企画し、白樺保全事業を共にする仲間を募集するチラシを印刷した。結果、県内外から25名が説明会へ参加した。昨年からの累計で70名を超えるネットワークを作ることができた。

＜自己評価＞ A

- 累計70名の地域の仲間とのネットワークを活かし、整備作業を共にすることで白樺のことを知ってもらい、白樺と地域の関係人口を増やすことができた
- 当所の活動目的に理解・共感いただいた上で新たに3名の方に白樺樹皮細工の作り手になっていただいた
- 県内外から多数の協力を得て、白樺の可能性や価値について周知するきっかけを作ることができた
- 白樺と地域、白樺と人の暮らしをつなぐ架け橋の役割を果たせたことに感謝している

今後の取り組み

今後も下記と連携・協働し、白樺を核とした景観の維持および特産品の開発に注力する。

＜協力＞

立科町産業振興課農林係、長野県林業総合センター、佐久地域振興局林務課、立科町商工会、信州たてしな観光協会、その他近隣の事業者及び住民

また、白樺高原の植樹の歴史を知らない若い町民や移住者たちにも知ってもらえるよう、情報の整理・発信をしていく。そして、これから先も町民の宝として白樺林を守り、町民が誇れる活動としていく。